

第二次市川市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)についての
パブリックコメント実施結果

市川市 環境部 循環型社会推進課

○実施期間

令和2年9月19日(土)～ 令和2年10月19日(月) 31日間

○ご意見を提出していただいた方の人数及び件数

① インターネット	8人	32件
② ファクシミリ	0人	0件
③ 循環型社会推進課へ提出(持参)	0人	0件
④ 市政情報コーナー(中央図書館等)	0人	0件
⑤ 郵送	1人	6件

○ご意見への対応

① ご意見を踏まえ、修正するもの	8件
② 今後の参考とするもの	13件
③ ご意見の趣旨や内容について、考え方を既に案へ盛り込み済みであるもの	3件
④ その他(本計画そのものに対するご意見でないもの等)	14件

○ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
1	本計画の5年間の対策は、これからの未来の環境を左右する決定的な時期なので、地球を市川の子供や孫に引き継ぐために 気温上昇を1.5度に抑えるための、地球温暖化対策が必要であるということを強く表現してほしい。	地球温暖化による環境変化の影響が深刻であることについてコラムで示す予定です。	①
2	市川市の実行計画であることがわかり、市民が実現に向けて実行しやすいように、キャッチコピーを設けてはどうか。	市民の取り組みを促進していく上で、今後の参考とさせていただきます。	②
3	ゼロカーボンシティ、RE100、RE Action、さらにC40、Race To Zeroなどへ参加し、市川市が気候変動に臨んでいる姿勢を示して、市のリーダーシップを発揮して、地球環境問題に取り組んでいく姿勢を示すべきではないか。	今後、行政が主導的な役割を担って、二酸化炭素排出量の削減が進むよう取り組んでまいります。	④
4	本計画案は、抽象的で具体性に欠けており、市川市の本気度が全く感じられない。		
5	行政は、計画の推進に向けて、市民、企業など、あらゆる方面に協力を求め、舵取り役として一体となって取り組んでもらいたい。		

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
6	説明が長い部分は資料編とするなど整理して、計画をもっと市民に分かりやすく、理解できるように内容・表現を見直してほしい。	表記ミスや誤りを修正するとともに、計画の内容が市民に伝わるように、分かりやすい内容・表現とすように努めます。	①
7	誤字や表記ミスがあるので修正していただきたい。		
8	第2章の本計画の位置づけについて、国の「長期戦略」との整合性にも言及して、国の閣議決定方針と整合性を図って、取り組みの前提とするほうが良いのではないか。	ご指摘いただいた「長期戦略」は実行計画に関連する決定方針であることから、図2-1の本計画の位置づけの中で、長期戦略について記述します。	①
9	基本理念については、以下の様にしてはどうか。 ①基本理念1:、「再生可能エネルギーへの転換を進める」ことを明示し「エネルギー転換」の必要性を理念に明示する。 ②基本理念2:「低炭素」では時代遅れであるだけでなく、パリ協定とも国の方針とも不整合なので、「脱炭素」とする。 ③基本理念3: 地球環境問題の緊急性が高まる中、地球温暖化を「意識」するだけでは不十分なので、「気候変動の危機感を共有し、」行動への原動力とすることが求められている。	二酸化炭素の排出量削減に向けて、市の姿勢をより明確に基本理念に示す必要があると考えています。そこで、各基本理念について、ご指摘の内容も踏まえて内容を修正します。	①
10	基本目標が、概念的・スローガンので、何をどこまで目指すのか曖昧に感じるので、行動を引き出しやすい目標にするべきではないか。	基本目標は市川市が環境問題に取り組んでいく意識を定めたものです。 いただいたご意見は、今後、具体的な方針や施策を検討する際の参考とさせていただきます。	②
11	2050年度のゼロカーボンシティ達成に向けて、明確な目標設定をし、具体的なビジョンを示すべきではないか。	今回改定する実行計画は2025年度までの計画となっており、2025年度の二酸化炭素排出量削減目標の達成に向けた、取り組みや指標を定めています。 長期目標で定めた、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロ達成に向けた具体的な取り組みについては、今後、国や県の実行計画なども踏まえ、検討してまいります。	④
12	2050年度におけるCO2排出量削減割合の目標値を、実質排出量100%削減と設定したことは良かった。	長期目標の設定については、本市が環境問題に率先して取り組むという姿勢を示すものとして「二酸化炭素排出量実質ゼロ」を掲げたものです。	④

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
13	<p>二酸化炭素排出量の削減目標値が不十分ではないか。</p> <p>2025年までに30%、2030年までに50%の削減を目指し、危機感・責任感を持って対応してほしい。</p>	<p>短期(2025年度)・中期(2030年度)の削減目標は、今後の省エネルギー対策や、再生可能エネルギー設備の導入などの取り組みによって見込まれる二酸化炭素排出削減量を試算し設定したものです。</p>	
14	<p>短期と長期の削減目標から期間毎の削減量を計ると、2020年度～2025年度の年間削減割合は年1%、2025年度～2050年度間の年間削減割合は年3.2%となる。</p> <p>二酸化炭素排出量の削減努力を2025年度以降に先延ばししないためにも、2025年度の削減目標は29.2%前後にしたいかどうか。</p>	<p>一方、長期目標の「二酸化炭素排出量実質ゼロ」については、本市が環境問題に率先して取り組むという姿勢を示すものとして掲げたものであり、その実現に向けて取り組んでまいります。</p>	④
15	<p>気温の上昇を1.5℃に留めるには、二酸化炭素排出量を2030年には45%、2050年にゼロにする必要があることを記述してもらいたい。</p>	<p>中期(2030年度)の削減目標は、今後の省エネルギー対策や再生可能エネルギー設備の導入などの取り組みによって、見込まれる二酸化炭素排出削減量を試算し設定したものです。</p> <p>また、第4章「二酸化炭素の削減目標」の2050年の長期目標に関する記述において、将来の気温上昇を1.5℃に止める必要があることについて言及しています。</p>	③
16	<p>国連では、2050年の二酸化炭素排出量の削減割合を2008年基準で100%にするという目標を設定し、このために、2030年の二酸化炭素排出量削減割合を、2008年基準で50%にするという中間的な目標を設定しています。</p> <p>市川市では、これを達成することは甚だ困難ですが、このことを計画の中で言及すべきと考える。</p>	<p>2030年度時点で、国連と同レベルの削減目標を達成することは、非常に難しい状況であると認識しています。</p> <p>今後の10年間は極めて重要な期間であり、より一層の削減努力が必要であるということが伝わるよう、記載を見直します。</p>	①
17	<p>市川市と国連の年間の二酸化炭素排出量削減割合を比較すると、2020年度～2025年度の期間は国連の削減率が高く、2025年度～2050年度の期間は市川市の削減率が高くなっている。</p> <p>このことを計画の中で言及し、その厳しい削減目標を達成するための方策について合理的な説明をするべき。</p>	<p>短期(2025年度)の削減目標の設定にあたっては、今後の省エネルギー対策等の取り組みによって見込まれる二酸化炭素排出削減量を試算し、設定しています。</p> <p>一方で、長期目標については、意欲的な目標として定めたものです。</p> <p>長期目標を達成するための取り組みとしては、国の施策と連携して再生可能エネルギーの導入拡大を図ると共に、蓄電池や水素の活用、再生可能エネルギー資源の豊富な他の地域との連携などの取り組みなども必要と考えています。</p>	②

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
18	2017年度におけるCO2排出量削減割合は、現計画の削減目標を大きく下回っていることを記述して、この原因を究明し、対策を講じる必要があるのではないか。	第3章「温室効果ガスの排出状況」で考察しているように、2017年度におけるCO2排出量の削減が低迷している要因としては、人口・世帯数の増加、再生可能エネルギーの普及の遅れ、市内自動車保有台数が増加する中で電気自動車の普及が進んでいないことなどが考えられます。これを踏まえて、第5章「目標達成に向けた取り組み」で示しているように、住宅などの建物の省エネ化、再エネ設備の導入、次世代自動車の導入などを重点施策に掲げ取り組んでまいります。	③
19	取り組み項目について、具体的な施策や、裏付け、工程、進捗状況の確認・評価、予算の規模、未達成だった場合の課題などが分からないので記載してほしい。		
20	取り組み施策について、全体に努力規定が多く、具体的目標も予算措置も見えないことから、効果が期待できないのではないか。		
21	本計画案に示されている重点施策などの施策について、どの程度実行すれば、二酸化炭素排出量の削減目標を達成出来るのかわからない。 例えば、建物の創エネ推進についても、市内の公共施設や事業所、及び住宅に対して、どのような創エネ設備を何%導入すれば、どれくらいの削減効果が見込めるのかわからない。	本計画は地球温暖化に対する取り組みの方向性をまとめたものとなります。 いただいたご意見については、具体的な施策の実施にあたって、二酸化炭素排出量の削減目標や効果をお示ししていく際の参考とさせていただきます。	②
22	緻密なシミュレーションとまでは言わずとも、市内の排出状況のデータのなどから、各施策をどれくらい実行すれば、どの程度効果が見込める、といったような表現はできないのか。		
23	施策の進捗達成度を定期的にチェック出来るように目標項目は具体的に数値化してもらいたい。 例：太陽光発電使用率 ○%、可燃ごみ排出量 ○トン以下	計画における取り組みの指標については、第5章「目標達成に向けた取り組み」に一覧表として掲載しています。 なお、指標は目標値を具体的に数値で示せるものについて数値化しております。	③

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
24	市内の大学と連携して、市民啓発を推進してもらいたい。	現在も、千葉商科大学と連携して、環境学習プログラム「未来ノート」事業を実施して、小学生に環境について考えてもらう機会を作るなどの取り組みを実施しています。 今後も、施策の実施段階において、市内大学などと連携した取り組みを検討してまいります。	④
25	重要施策のテーマの低炭素なまちづくりは、低炭素ではなく脱炭素とするべきでないか。	2050年のゼロ・カーボン達成に向けた本市の姿勢を示すためにも、ご指摘の内容に修正いたします。	①
26	次世代自動車の推進にあたっては、購入をサポートする際の検討ルールを決定する事が重要だと思う。	施策の実行にあたっては、他の自治体の事例なども参考に支援方法などを検討してまいります。	④
27	エネルギーの地産地消は、再生可能エネルギーの増加を通じて実現できるものなので、「再生可能エネルギーの促進」としたほうが良いのではないか。	エネルギーを市内で自給自足していくことを示すために、今回のような表現とさせていただきました。 なお、ご指摘は今後の参考とさせていただきます。	②
28	再生可能エネルギーを推進して、地産地消を進める取り組みとして、事業者・市民の支援・連携、施策の導入、公共施設での再生可能エネルギーの積極導入とその支援などを記入すべきではないか。	計画の重点施策として掲げているように、本市でも再生可能エネルギーの有効利用は、二酸化炭素排出量の削減に向けて必須であると考えております。 いただいたご意見も参考に、再生可能エネルギーの活用について表現を見直します。	①
29	建物の省エネ・創エネを進めて、脱炭素社会を実現するために、ゼロエミッション住宅・建築物に対して、支援措置を図るとともに、既存・新築両面での創エネ・省エネの具体的な施策を導入すべきだと思う。	重点施策にも掲げているように、再生可能エネルギーの活用は本市の二酸化炭素排出量削減を進める上で重要な取り組みの一つと認識しております。	②
30	市内の再生可能エネルギーの利用拡大を図るべきだと思う。 取り組み例 ① ソーラー屋根台帳の作成・導入 ② 公共施設への太陽光パネル導入推進 ③ 電力の脱炭素化や省エネ支援の推進 ④ 地産地消のビジネスモデル構築	そこで、再生可能エネルギーの活用に関する具体的な施策の検討や推進にあたっては、いただいたご意見も参考に、取り組みを検討し、事業者や他の自治体とも連携して進めてまいります。	
31	再生可能エネルギーの普及・促進として、建築確認申請時に一定以上の面積を有する家屋等には、太陽光発電システムの導入の検討を義務付けるなど、計画を現実化するための条例を制定してはいかがか。		

No.	ご意見の概要	市の考え方	ご意見への対応
32	地域電力会社の設立や、他の自治体との協定など、他の地域と連携して再生可能エネルギー利用を進めるべきだと思う。	重点施策にも掲げているように、再生可能エネルギーの活用は本市の二酸化炭素排出量削減を進める上で重要な取り組みの一つと認識しております。そこで、再生可能エネルギーの活用に関する具体的な施策の検討や推進にあたっては、いただいたご意見も参考に、取り組みを検討し、事業者や他の自治体とも連携して進めてまいります。	②
33	少なくとも2025年に公共施設の30%、民間の住宅・建築物の20%の導入を実現するなど、具体的な再エネ導入目標を掲げたほうが良いのではないかと。そして、屋根置き太陽光発電のポテンシャルを把握するソーラー屋根台帳の整備や、市民発電を行うNGOや教育機関との連携し、屋根貸し制度などの各種施策を促進するべきではないかと。		
34	エネルギー転換は、今後、持続可能な地域・まちづくりをしていく上で、必ず必要なポイントと思われるので、積極的に推進してもらいたい。	脱炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーへの転換を推進してまいります。	④
35	実行計画では具体的なアクションプランに言及しないのであれば、アクションプランを、市と市民・事業者・教育機関が協力して1年間で創り上げるというプロジェクトを打ち立てはいかがかと。	今後の施策の検討や実行に向けて参考とさせていただきます。	④
36	ボリュームのある計画のパブリックコメントを同時期に出されると、内容の確認や回答が大変なので、出来れば時期を分けてもらいたい。	今後パブリックコメントを実施する際の参考とさせていただきます。	④
37	家庭でできるエコライフの取り組み例で挙げられている、空調の取り組み冷房時の室温28℃と、暖房時の室温20℃は何を根拠としているのでしょうか。	環境省の「クールビズ」や「ウォームビズ」で推奨している設定温度を根拠としています。	④
38	自然災害の取り組みの中で、内水対策として下水道を整備します。とありますが、合流区域の外、分流区域でも実施するのでしょうか、整備予定区域はどこでしょうか。	分流地区では、汚水管・雨水管のそれぞれを下水道事業で整備する計画としています。現在、雨水事業としては浸水被害が多い市川南地区、高谷・田尻地区を中心に整備を進めているところです。	④